

# 来週の「売り物記事」はこれ



2019年3月8日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 石巻で生きる

### 亡き妻子と暮らした地で再出発

10日(日)



東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市に飲食店「かめキッチン」が開店して1年を迎えます。

店主の今野洋昭さん(38)は震災で妻子4人を亡くしました。失意の中で洋昭さんは古里の秋田市で幼なじみのキミ子さん(38)と再会し、再婚を決意。亡き妻や子どもたちと暮らした石巻市に店を構えました。



震災から8年。再出発した洋昭さんの思いに迫ります。  
筆者は石巻通信部の百武信幸記者です。

## 東京スポニチ大会11日開幕 社会人野球シーズン到来

スポーツ面 11日(月)から4日間

社会人野球のシーズン到来を告げる「第74回JABA東京スポニチ大会」が11日、神宮球場や横浜スタジアムなどで開幕します。連覇を目指すホンダや昨年の日本選手権準優勝のJFE西日本、トヨタ自動車東日本、東邦ガス、NTT西日本、沖縄電力など16チームが出場します。



14日までの4日間、優勝チームに与えられる今秋の日本選手権(京セラドーム大阪)の出場権をかけた熱戦をお伝えします。

## きらり 私の居場所は「北欧」 翻訳家、柳澤はるかさん

サラダぼうる面 11日(月)

翻訳家の柳澤はるかさんは会社員時代に北欧を訪れ、かの地の文化研究を始めました。

典型的なフィンランド人の習性を描いた初の翻訳本「マッティ」シリーズで海外漫画の作品賞を受賞。残業しない働き方や男女平等社会に魅せられたそうです。

「一人だけはぐれて日本に生まれたんじゃないか、と思うくらい北欧にいる自分が自然だった」と言う素顔をお伝えします。

## 平成も残りわずか スマホで進む 若者のモノ離れ

夕刊特集ワイド 11日(月)

クルマ離れ、海外旅行離れ、酒離れ——。平成という時代を通じて、若者の「〇〇離れ」が進んだようです。

1990年代のバブル崩壊後、長引く不況で価値観が変化したのが一因と言われてきましたが、近年はスマートフォンの影響が大きいようです。

平成も残りわずか。平成の「〇〇離れ」を探ってみました。

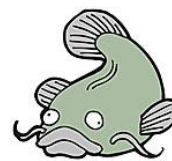
## 【論点】 東日本大震災から8年 どう備える 巨大地震

オピニオン面 13日(水)

多くの自然災害に見舞われた平成時代が間もなく幕を閉じます。

今後30年以内に高い確率で発生が予想れる南海トラフ地震では、8年前の東日本大震災を超す被害も想定されています。前兆と疑われる現象が起きた時の避難の目安を政府はまとめていますが、その「あいまいさ」に不安の声が上がっています。

私たちは巨大地震にどのように備えるべきでしょうか。  
時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。



## ルポ 忘れられた高齢者

くらしナビ面 13日(水)から

「長寿社会」「高齢化社会」といわれて久しくなりました。障害のある人たちもまた長寿・高齢化して、若くして障害者施設に入った方たちが一斉に「古い」を迎えています。



今回の現場は群馬県高崎市の知的障害者施設「のぞみの園」です。これまでほとんど顧みられてこなかった知的障害者の認知症をテーマに、お年寄りになった障害者の実情を現地から報告します。

## 東京五輪企画「Moment 復興五輪の実像」

社会面など 13日(水)から

東京五輪の開幕まで12日であと500日。招致段階で掲げられた「復興五輪」の理念は、福島県をスタートする聖火リレーや宮城、福島両県での競技開催などで具現化され、被災地の機運も変わりつつあります。

一方、その理念が、被災地の実情を十分に踏まえることなく、関係者の思惑で利用されてきた側面も否めません。5回のシリーズで復興五輪の実像に迫ります。



## がん大国白書 その日に備えて

医療・福祉面 13日(水)

がんになる前に知っておくべきことを紹介する連載の最終回は、がん予防です。喫煙などががんのリスクとなる生活習慣が明らかになり、予防の啓発が盛んです。



しかしがんの発症要因のうち、生活習慣などの環境要因は約3割で、7割弱は偶発的な遺伝子の複製ミスという「運」によるということが分かっています。「患者を傷つけないで」との呼び掛けが広がっています。